

ANNUAL REPORT 2011

わたしたちは
北海道の暮らしたいまち
オンリーワンづくり
を目指します

北海道まちづくり協議会 2011年度 活動報告書

Contents

Greetings

ごあいさつ | 02

Main annual activity

主な年間活動 | 03

Study activities

まちづくり支援研究活動 | 05

Seminar

まちづくりゼミナール | 09

Member interchange

会員情報交流会 | 14

Organization

組織・役員 | 16

Members

会員名簿 | 17

●ご覧になりたい項目をクリックするとページに移動します

Greetings

わたしたちは“北海道の暮らしたいまち－オンリーワンづくり”を目指します。



北海道まちづくり協議会

代表 大石 章夫

まちづくりの多くは、これまで、市街地の整備拡充と均衡ある発展を目指し、各種の取組みや施策が展開されてきました。

近年は、人口構造やライフスタイル、社会経済環境等の変化を踏まえ、地域ごとに独自色のある、そして持続可能なまちづくりとまちのマネジメントが求められてきています。

わたしたちは、このようなニーズを捉え、地域色あふれる「わがまち」づくりを目標に、地域を支える産業や経済、環境など、地域を取り巻くまちづくりの要請にお応えしたいとの決意で、北海道に住まう人々にとって暮らしやすいまちづくりの研究と実践活動に臨んでいます。

わたしたちの多くは、一昨年まで、解散した社団法人北海道まちづくり促進協会の一員として、北海道各地域との連携や協働という活動の中で、まちづくりの研究と実践に携わってきました。そこで培ったネットワークや専門的知識、経験を活かし、ますますの研鑽を重ね、“北海道の暮らしたいまち－オンリーワンづくり”実現のため、地域との協働、共創の場を大切にしながら、研究と実践活動に取り組んでいます。

また、協働、共創を進めるために重要とされる幅広い視野、柔軟な発想を習得するため、学識者を交えたまちづくりゼミナールの開催や会員相互による自主研修講座の開設、地域との交流ステージなど、環境づくりにも努めています。

これからも、わたしたち北海道まちづくり協議会は、こうした活動を通じて、地域社会の将来のために貢献していきたいと考えています。

Main annual activity

主な年間活動

組織運営

設立総会	4月5日 会場：かでの2.7 出席：25名、委任状8通 全会一致で設立を宣言
上半期事業報告会	11月18日 会場：かでの2.7 出席：25名
運営幹事会	4月6日、10月5日 協議会事務局

まちづくり支援事業

(1) まちなか再生研究

商店街通りの再生を 支援する活動	スタディ・ミーティング7回実施。海外の「通り再生プログラム」事例などを研究するとともに、北海道における状況、ポテンシャルなどについて意見交換
---------------------	--

(2) コミュニティ再生研究

子どもたちと自分の まちを考える活動	札幌市内小学校でのワークショップ開催に向けて準備を行い、 8月8日～10日「まちの宝マップづくり」ワークショップを実施
震災を契機とした新しい まちづくりを考える活動	○勉強会 ○ミニフォーラム ○視察報告会 ○フォーラム を他団体と協力のもと実施

(3) 再開発研究

マンション建替えを 支援する活動	事例研究を中心にスタディ・ミーティング7回実施
---------------------	-------------------------

交流研修事業

まちづくりゼミナール	8回開催 参加総数：193名 協議会のメンバーが講師となり、それぞれの専門分野からテーマを設定し講座および意見交換を実施
会員情報交流会	4回開催。参加総数：77名 会員からの任意の話題提供で気軽な意見・情報交換会を実施
まちづくり研修会	1月26日 会場：かでの2.7 参加：33名 第1部：まちづくりゼミナール 第2部：まちづくり支援研究活動の経過報告を実施
新年交礼会	1月26日 会場：ホテルポールスター札幌 参加：30名
まちづくり出前フォーラム	2月8日 会場：緑苑ビル2階会議室 参加：14名 (※砂川市会場で開催予定が吹雪による交通障害で中止、札幌にて縮小開催)

その他 附帯事業

環境への取り組み	公益社団法人北海道森と緑の会へ1万円を寄付 (※年度事業予算の1%程度。地域の環境保全への貢献を目的として実施)
----------	---

Main annual activity

主な年間活動より

｜設立総会で気持ちも新たにスタート宣言

平成23年4月5日、出席者25名、委任状8名で北海道まちづくり協議会の設立総会が行われました。総会では、設立発起人より議案説明が行われ、全ての議案が出席者全員の承認を得て滞りなく可決されました。代表に大石章夫氏、運営幹事に森哲子氏、大場眞一氏、佐藤薫氏、菅野克氏、林雅之氏、中山祐二氏が決定しました。“北海道の暮らしたいまち—オンリーワンづくり”を目指し地域との協働、共創の場を大切にしながら研究、実践活動に取り組んでいくことが全会一致で宣言されました。



｜北海道の森と緑づくりに協力—環境への取り組み

日本は森林が国土の約69%と世界でも有数の自然に恵まれた国です。とりわけ北海道は産業や観光、自然エネルギーや水資源など森林や自然環境との繋がりが深く、まちづくりにおいても大切な要素となっています。

当協議会の「環境への取り組み」の一環として、道民参加型で広く全道各地で森づくりに取り組んでいる「公益社団法人北海道森と緑の会」の活動に賛同し、当協議会の年間事業費の約1%を寄付することを運営幹事会で決定しました。

平成24年3月22日、当協議会大石代表が公益社団法人北海道森と緑の会を訪問し、阿部専務理事に寄付金を贈呈しました。



Study activities

まちづくり支援事業（研究・実践活動）

まちなか再生研究

「商店街通りの再生を支援する活動」

代 表	大石章夫
メンバー	一戸勝巳、内山靖久、大石章夫、大場眞一、岡本浩一、荻野佳子、加納隆一、坂本行宏、佐藤市郎、杉本潔、高橋明男、武井秀爾、中村清一、能戸裕之、濱谷雅弘、藤山三冬、森哲子、山口重則
オブザーバー	岡田貴裕



ミーティングの様子

●活動方針

テーマ (目的)	・ コーディ協がまとめた「街なか《通り再生》プログラム」の導入に向けた地元組織づくりの支援 ・ 地元組織が取り組む「街なか《通り再生》プログラム」実践活動の支援
活動内容	・ 地元組織づくりの支援プログラムの作成 ・ プログラムに基づき地元組織づくりを現地指導 ・ 「街なか《通り再生》プログラム」の実践指導
活動方法	・ 地元組織づくりの支援プログラムは、活動参加者によるワークショップ等を行い独自にマニュアルを整理 ・ マニュアルを公表し、支援を希望する団体を募集 ・ 希望団体にヒアリング調査を行い、支援する団体を決定 ・ 決定した団体に、地元組織づくりのための現地指導
成果の 主たる評価軸	・ 活動への参加意欲の度合い

●活動状況（実績）

	月 日	場 所	主な内容
1	7月22日	緑苑ビル 201 会議室	活動のオリエンテーリング
2	9月14日	緑苑ビル 201 会議室	活動プログラム案検討
3	10月13日	緑苑ビル 201 会議室	「街なか《通り再生》プログラム」チャート0・1の説明
4	11月16日	緑苑ビル 201 会議室	「街なか《通り再生》プログラム」チャート2の説明
5	12月15日	緑苑ビル 201 会議室	プログラム説明資料検討
6	2月17日	緑苑ビル 201 会議室	活動紹介説明資料の検討
7	3月23日	緑苑ビル 201 会議室	事例説明と意見交換

●活動成果および評価（代表）

- ・ 7回実施したミーティングの参加率は良好で、メンバーの意欲の高さが示された。
- ・ ミーティングにおける意見交換等については、積極的な発言があり様々な視点からの話し合いが行われたので、一定の成果を得られたと思う。
- ・ グループ最大の目標である実践、現場との接触については、その機会を得ることができず不調に終わり、参加メンバーの期待を満足させることができなかった。
- ・ 次年度は、取り組み初動の切り口を再検討し、商店街地区の活性化研究・実践活動に取り組んでいきたい。

Study activities

まちづくり支援事業（研究・実践活動）

コミュニティ再生研究 |

「子どもたちと自分のまちを考える活動」

代 表	大場眞一
メ ン バ ー	大場眞一、岡本浩一、能戸裕之 瀧田展明、森哲子
サポートメンバー	富山哲也、北海学園大学・岡本ゼミ学生



●活動方針 「まちの宝マップ」とワークショップ参加者▶

テーマ (目的)	子どもたちの視点から見たまちの姿を糸口に、地域の環境形成や地域固有の資源をどう未来へ引き継いでいくかを考える。子供たちの住まう地域への愛着や誇りを醸成し、マナー啓発やまちに関心を持つ人づくりに寄与できる機会となることをめざす。
活動内容	・ワークショップにより子どもたちに自分の住むまちへの興味、まちづくりのきっかけづくりを行う ・小学校等へ企画説明、参加協力の打診を行い、夏休み期間中に「まちづくりワークショップ」を開催
活動方法	・フィールドワークを主体としたワークショップ『つくろう!まちの宝マップ』の実施 1日目: みんなで「まちの宝」を見つけに行こう!宝と感じたものをどんどん撮影 2日目: 大きな紙にセレクトした写真をはり整理。まちの宝マップづくり 3日目: 作成したまちの宝マップをグループ毎に発表
成果の 主たる評価軸	①子供たちの地域に対する愛着や誇りが芽生えるきっかけとなったか ②子どもたちの視点から新たなまちづくりのヒントや切り口がみえたか ③小学校、自治体、学識者、民間業者 等による連携が構築できたか



●活動状況（実績）

参加募集チラシ▶

	月 日	場 所	主な内容
1	6月17日	協議会事務室	目的と活動内容確認
2	7月4日	協議会事務室	地域との関わり、ワークショップの進め方
3	7月5日～13日	栄小学校・まちづくりセンター	ワークショップ準備（チラシ配布、学校・まちセン説明等）
4	7月15日	栄小学校	外歩き現地踏査
5	7月22日	栄小学校	学校との最終的な段取り調整
6	7月26日	協議会事務室	ワークショップ段取り、役割確認
7	8月8日～10日	栄小学校	ワークショップ開催
8	8月31日	栄小学校	校長への結果報告
9	10月7日	協議会事務室	今後の活動について
10	11月1日	協議会事務室	報告書作成について

●活動成果および評価

- ・ワークショップに参加した子どもたちが自分達の暮らす地域を見つめ直すきっかけのひとつとなった。
- ・宝マップ作成作業を通して、子どもから大人に何がやりたいのかを伝え、大人は子どもの目線を尊重して共同作業を導く、といった世代間コミュニケーションが不可欠な作業の、留意点を確認できた。
- ・大学生の参加により、小学生と大学生の共同作業といったプログラムの模索に繋げることができた。
- ・子どもたちの思いを十分に引き出せなかった点もある。テーマ設定や進め方に工夫が必要と感じられた。

Study activities

まちづくり支援事業（研究・実践活動）

コミュニティ再生研究

「震災を契機とした新しいまちづくりを考える活動」

代 表	高森篤志
メンバー	高森篤志、中山祐二、林雅之、内山靖久 五十嵐 憲一、佐藤潤、香川誠、久新信一郎 武井秀爾、押野和也、前道美有、高橋美香



ミーティングの様子▶

●活動方針

テーマ (目的)	- 東日本大震災後の被災状況把握、防災基準の見直し、復興構想等を踏まえ、北海道における防災施設、都市基盤、産業基盤、コミュニティ等について課題を整理するとともに、未来のまちづくりについて提案、提言を行うことを目的とする。 - 活動を通じて、新たなまちづくりに関わる各種専門分野、産学官のネットワークづくりを行う。
活動内容	- 被災・復興に関わる情報のストックと共有（ネットを活用した情報共有） - 各種専門分野等の専門家を招いた勉強会の実施（防災、都市計画、エネルギー、その他） - フォーラム、シンポジウムの開催 - ケーススタディ
活動方法	- 月1回程度の勉強会を行う。講師選定は、各参加者間の持ち回りにより行う。 - 年内をめどにフォーラムを開催する。（初年度） - モデル都市、地域を決め、災害に強いまちづくりのケーススタディを行う（次年度以降） - 都市環境デザイン会議、都市計画家協会、各種学会等との情報交換、連携を進める。
成果の 主たる評価軸	- 各種活動を通じた、課題や提案の内容 - 活動成果による情報発信、交流の状況

●活動状況（実績）

	月 日	場 所	主な内容
1	7月8日	まちづくり協議会・会議室	第1回準備会
2	9月16日	まちづくり協議会・会議室	第2回準備会
3	9月1日	まちづくり協議会・会議室	勉強会
4	10月31日	札幌 ユビキタス協創広場 U-cala	ミニフォーラム
5	11月28日	かでる 2.7	視察報告会
6	12月17日	札幌コンファレンスホール	フォーラム

●活動成果および評価

【勉強会・フォーラムの開催】※上記活動状況参照

○勉強会「震災発生からこれまでの動きと今後の研究の方向性」

○ミニフォーラム「震災後の新しいまちづくりー自立した地域づくりを目指して」

○視察報告会

○フォーラム「復興から新しいまちづくりへー阪神淡路と東日本そして北海道」

Study activities

まちづくり支援事業（研究・実践活動）

再開発研究

「マンション建替えを支援する活動」

代 表	深澤照一
メンバー	大石章夫、押野和也、葛西政一、菅野克、佐藤市郎 佐藤薫、杉本潔、武井秀爾、八田真勝、林雅之 深澤照一、本間寿幸、横山幹人、濱谷雅弘 岡本浩一、内山靖久、久新信一郎、後藤健夫



事例研究ミーティングの様子▶

●活動方針

テーマ (目的)	・ マンション建替えの普及啓蒙活動 ・ マンション建替えを検討する管理組合の支援
活動内容	・ (社) 再開発コーディネーター協会、マンション建替えアドバイザーネットワーク北海道と連携してマンション建替えに関する情報提供や推進活動を実施 ・ マンション建替えを検討する管理組合にた建替えプログラムの現地指導 ・ マンション建替え実施の管理組合にコンサルティング参加
活動方法	・ (社) 再開発コーディネーター協会マンション建替え支援事業委員会から報告を受けた事例についての研究 ・ 国土交通省から提供されるマンション建替えに関する新情報の把握 ・ マンション建替え検討の管理組合からの希望によるコンサルティング活動
成果の 主たる評価軸	・ 当面は、継続的な会合の開催

●活動状況（実績）

	月 日	場 所	主な内容
1	7月16日	緑苑ビル 201 会議室	活動内容とスケジュール、初台サンハイツマンション事例
2	8月4日	緑苑ビル 201 会議室	Rビル建替え検討の支援について
3	9月7日	協議会事務所	Rビルアンケート内容検討
4	9月28日	緑苑ビル 201 会議室	赤坂コーポラスマンション事例ほか
5	11月30日	緑苑ビル 201 会議室	桜新町グリーンハイツ事例ほか
6	1月25日	緑苑ビル 201 会議室	エビスマンション事例ほか
7	3月27日	緑苑ビル 201 会議室	活動紹介資料の検討

●活動成果および評価

- ・ マンション建替えの事例を説明紹介することで、事業を進める上での課題等について、意見交換をすることができた。
- ・ 道内では、マンション建替えは時期尚早との機運であるが、将来訪れるであろう機会に対し、意識を継続することができた。

Seminar

まちづくりゼミナール

第1回 講座 | 2011年5月26日

「再開発屋のまちづくり」

講師 | 大石章夫氏 | (有)大石R計画 代表取締役

5月26日、当協議会代表・大石章夫氏を講師に迎えて開催した第1回まちづくりゼミナールは、33名の方々に参加いただきました。



ゼミは再開発とはなにかで始まり、佳境では、関係権利者との協議においては、十人十色の価値観とストーリー&ヒストリーがあることを忘れてはならない、それこそが合意形成への説得力に繋がるということを、生々しい経験談を交えて語ってくれました。また、再開発をまちづくりにどう生かせるか、という視点から、商店街と住民の相互関係や地域の実情と照らし合わせた身の丈商店街のあり方など、目指すべき方向の例を示してくれました。

余談として、再開発の顧客満足度指標をもとに、再開発で“顧客は誰か”その“顧客”の先にある“顧客は誰か”を把握する広い視点が大切と語り、大石氏も大好きで繰り返し訪れているというディズニーランドとディズニーシーの、ディズニーディズニーマジックと呼ばれる顧客本位のサービスから学ぶべき点について体験談を交えて紹介してくれました。

また、「再開発はひとりではできない、よって強力なブレーンを持つべし。また、自分は誰かのブレーンの一員になる。足りないときは、適材適所のブレーンに手伝ってくれ、と常にいえる姿勢が大事だ」と、座右の銘とも言える、仕事に向かう姿勢を語られました。



レポート：森哲子氏(運営幹事/(株)クオリアット)

第2回 講座 | 2011年6月30日

「立退料について」

講師 | 佐藤薫氏 | 一般財団法人 日本不動産研究所 北海道支社 支社長

6月30日の第2回講座は、当協議会運営幹事・佐藤薫氏を講師に迎え、34名の参加がありました。



今回は、「立退料について」鑑定評価上の権利価格と補償基準との関連を中心にお話いただきました。不動産鑑定評価の依頼目的には、従来からの売買や担保のほか、企業会計に絡むもの等があり、その対象も事業用不動産など、さまざまものに及んでいる現況の説明から始まり、東北支社に勤務されていた時の経験談を交え、なかでも借地権と借家権の考え方や取り扱い方を中心に解説してくださいました。

立退料は、不動産鑑定評価基準や補償基準とかかわりを持っており、両方からのアプローチができる。現在は、その折衷案的手法も試みられているが、佐藤さんご自身としては、実務的な観点から見ると補償基準からのアプローチの方が説得力があるのではないかとのご意見を述べられました。

ゼミナール終盤では、参加者からも、道内や札幌での再開発事業における借地権や借家権の取り扱い等の事例や経験事例についての情報提供があり、意見交換が活発に行われました。鑑定評価をするのは、土地や建物だが接するのは人、まさに暮らしや生業そのものであることから、立退料査定においては、実体の不明確な借家権価格+αの観点よりも、借家人補償を含む通常損失補償の観点からの検討の方が、慣行にも馴染み妥当性が高いと締めくくられました。



レポート：能戸裕之氏(運営幹事/(有)ジョブコム)

Seminar

まちづくりゼミナール

第3回 講座 | 2011年7月28日

「サイクルシェアリングシステム—ポロクル」

講師 | 澤充隆氏 | (株)ドーコン モビリティデザイン 取締役事業部長

7月28日、澤充隆氏を講師に迎え、サイクルシェアリングシステム『ポロクル』事業について講演していただいた。



エコの意識が高まるなか、札幌市においても自転車の利用者が急増、この現象に伴い「放置自転車の増加」「駐輪場所不足」「歩行者とのトラブル」など社会的問題として取り扱われることも増えている。そのような中、「自転車において住みよい街をつくる」サイクルシェアリングについての活動が始められた。モデルはフランス・パリの『ベリブ』(1800のステーションと約2万台の自転車を保有。街路広告と自転車利用収入によるレンタサイクル事業)

08年ドーコン有志と大学の先生と学生が調査を行い、札幌の機械メーカーとシステム設計会社がサイクルポートを開発。09年8月、8か所で実地実験をスタート。11年4月に20か所自転車100台で事業を開始。サイクルポートは都心部に集中して設置され、利用料は105円/30分(登録料金別途)。目下のところ、仕事での移動利用が大半だが、ショッピングや観光の足として商業施設、ホテル、観光拠点にも設置されている。

自動車の渋滞に巻き込まれず、時間やコスト的にも利点があるとの評価が利用増につながっていると報告された。課題としては、各拠点毎の利用状況の偏りによる自転車の過不足などが浮き彫りになってきており、課題も踏まえ、サイクルポートを40か所に増強していく計画も発表された(マナー啓発活動を行っている)。

後半でのフリートークでは、行政との連携による社会的課題への取り組み。利用者が増えるようなPR活動。事業の収益性、冬期間の収入は?等さまざまな質問・意見が続出。

レポート筆者の私も日常的な自転車愛好者。車の移動とは違った心地よい景色も見られます。

レポート: 山口重則氏(会員/YAM建築計画)

第4回 講座 | 2011年8月31日

「土壌汚染と土地取引リスク」

講師 | 菅野克氏 | 清水建設(株)北海道支店 開発営業部課長

8月31日、当協議会会員・菅野克氏を講師に迎えて開催し、28名の方々が参加された。



今回は、「土壌汚染と土地取引リスク」という題目で土壌汚染対策法を中心に、それに係る土地取引の考え方やリスクヘッジ等のお話いただいた。

講義は、菅野氏がこのテーマについて調べることに至った仕事の経歴、そして近年の土壌汚染に関する土地取引の裁判事例から始められた。土壌汚染への注目は外資系ファンドの進出がきっかけという背景、何を土壌汚染というのか、などの話を経て、土壌汚染対策法に関すること、土壌汚染調査方法、調査結果の取り扱いなど、さすがに技術者らしく分かりやすい解説だった。特に「改正土壌汚染対策法」における自然由来の汚染物質の法律上の取扱い方や現状の行政の扱いなどは、最新の情報を提供していただき大変興味深い内容であった(札幌は広い地域で自然由来の砒素が存在する。目下のところ放射性物質に基準はないなど)。

また終盤は土地取引に対して先の土壌汚染調査で得た結果やその他の「知り得た情報の開示」「リスク程度の取引当事者判断」や「リスク分担を合意しての契約」へと話が進み、最後に土壌汚染の観点から「安全な土地取引とはシロの取引ではなく、リスクの程度が、明確な根拠に基づいて、相互に認識できる取引である」と結んで講義を終了された。

意見交換では参加者から、調査会社の責任度合い、土壌汚染に関して鑑定評価側から見た意見、実際の事例における相談など、終始活発に質問や意見交換が行われた。

レポート: 坂本行宏氏
(会員/(有)ワイズデザインアンドマネージメント)



Seminar

まちづくりゼミナール

第5回 講座 | 2011年10月27日

「災害対策とまちづくり—震災対策を中心として」

講師 | 林雅之氏 | パワーウェーブ 主宰

10月27日、林雅之氏を講師に迎え、北海道における地震とその対策を中心としたまちづくりをテーマに講演いただいた。



まず、北海道における自然災害において、地震・津波による災害は風水害に続いて総合的な被害が大きな災害であり、対策を重要視する位置づけであることを、統計的な数値を示しながら説明された。道内で起こりうる地震については、想定規模、各地域の最大震度・断層・震央の位置など数多くの情報が、さまざまな機関から発信されていると紹介され、全ての情報を重ね合わせると道内全域で安全なエリアは無く、全ての地域が危険にさらされる可能性があることも公開資料から読み取ることができるとのことでした。

こうした避けられない地震に対する対策については、地震予知からはじまり、耐震・免震・制震などの建築的手法、防災型都市づくりに至るまで、多分野でさまざまな取り組みが行われていると説明され、また、地震に強い都市構造を構築する際、コンパクトシティの考え方を取り入れる必要性・有効性についても強く指摘されました。

質疑応答では、東日本大震災の経験から、札幌中心部への津波被害の可能性の有無や、ライフライン等ネットワークの分断を検証することで出てくるものがあるのでは、など活発な意見交換がなされました。

今回の講義を通し、身近に地震に対する情報が数多く提供されていることや、津波避難ビルの設置などの震災対策が行われていることを再認識しました。自分の住むまちの状況を知ることから考えることも大切ではないか、そして、そのような機会づくりもまちづくり活動のひとつだと実感する講座でした。

レポート：久新信一郎氏(会員/岩田地崎建設(株))

第6回 講座 | 2011年11月25日

「炭鉱の記憶で地域の再生—地域資源の活用とエリアマネジメント」

講師 | 吉岡宏高氏 | 札幌国際大学 観光学部観光経済学科教授

11月25日、吉岡宏高氏を講師に迎え、産炭地地域再生の取り組みについてご講演いただいた。ご自身、産炭地三笠市のご出身で、NPO法人炭鉱の記憶推進事業団を15年前に立ち上げ、岩見沢を拠点に理事長として地域マネジメント活動に取り組んでおられる。



かつては北海道の基幹産業であり、黒いダイヤともてはやされた空知の石炭産業は、昭和35年から45年をピークに、その後のエネルギー政策転換により急速に衰退する。しかしながら、戦中、戦後の日本経済にとって石炭は重要なエネルギー源であり、電力安定化は戦後日本の高度成長に大きく貢献したという。北海道開発の歴史を見ても、石炭輸送手段としての鉄道敷設や満州等への積出し港である小樽港と小樽運河の整備、室蘭の製鉄に石炭が欠かせなかったことなど、石炭産業が北海道に果たした貢献度を熱く語られた。一方、閉山後の地域再生について、国の莫大な資金を投入しながらも成果を得られなかった過去を憂える。今の活動は、そのような反省を教訓に地道に続けているという。また、時代は前後するが、ドイツやロシア、イギリスといった旧産炭国が文化遺産として炭鉱を保存整備する状況が、写真を交えながら興味深く説明された。

最後に、05年の「炭鉱遺産サミット」、産炭地地域活性化戦略の立案など法人の活動内容が紹介された。最近、解体の危機にさらされていた奔別炭鉱選炭施設などの炭鉱(やま)の記憶を手がかりに、過去の歴史を振り返り、それを未来の手がかりとすべく力を発揮されている。炭鉱遺産をステージにしたアートプロジェクトや炭鉱集落との交流など、地域内外の人達に知的好奇心をそそるこれら活動に、参加者から大きな拍手が沸きあがり、1時間半におよんだ講演は終了した。

レポート：目黒裕史氏(会員/(株)日本設計 札幌支社)

Seminar

まちづくりゼミナール

第7回 講座/まちづくり研修会・第1部 第2部/まちづくり支援事業活動経過報告 | 2012年1月26日

「1年目をむかえる札幌駅前通地下歩行空間—活用面の工夫と今後の課題について」

講師 | 石塚雅明氏 | 札幌駅前通まちづくり株式会社 企画事業部長

平成24年1月26日、『まちづくり研修会』第1部としてゼミナールを開催。

札幌駅前通りの計画・まちづくり会社の運営に携わっておられる石塚雅



明氏を講師にお迎えし、開業から間もなく1年が経つ札幌駅前通地下歩行空間の活用面の工夫・課題などを、制度的な視点を絡めて講演いただきました。

まちづくり会社ではまち全体の活性化をねらいとしており、事業収益を地上部とのアクティビティや地下空間沿道部との連携を高めることに還元している等、事業全体像を映像資料でわかりやすく解説いただきました。収入源の核となっている地下広場では、季節や世代にとらわれないことを強みに様々なイベントが企画されている具体的な事例を紹介。しかし、利用が増えると、反面あらゆるものがはびこり、空間の質や魅力が減退することにも繋がる。とりわけ公共空間では規制や線引きが難しい、と現場ならではの問題提起もありました。空間の強みを確保するうえでは、制度設計によるコントロールが重要であり、壁面広告のルール化の話は興味深いものでした。地区計画についても、接続幅員に応じた容積率の緩和による既存ビルの建て替え更新の促進、歩行レベルの統一性を図る仕組みなどの説明があり、なるほど、と思いました。

参加者からは今後の展望に関する質問が多く出され、石塚氏は地下空間の活気をいかに地上部に表出させるかが課題で、地上部の魅力創出の策としては、アトリウム空間の整備、地下と連動したユーティリティ空間の創出、まち歩きのためのマップ作成などを計画しており、しっかり取り組んでいきたいと抱負を述べられました。札幌のまちがさらに魅力的になっていくことへの期待と同時に、石塚氏の活動にも注目していきたい内容でした。

『まちづくり研修会』第2部では、当協議会で現在実施している4つのまちづくり支援活動についての経過報告を行いました。各活動リーダーから初年度の活動取組と今後の方針・方向性を中心に、ミーティングや情報の収集、現場取材や勉強会の実施などの様子が報告されました。次年度にむけては、蓄積した理論やノウハウを実践へと移すことが共通の目標となりました。実践および活動を継続していくためには、自治体をはじめとする関係機関への協力、会員の参加・増員など、組織づくりのさらなる充実化が求められます。当協議会が人と人の繋がりや異業種間の交流を育む場として機能していくことが、活動の推進にも結びつくのではないかと実感しました。

【まちづくり支援活動(研究活動)】

- 商店街通りの再生を支援する活動
- 子どもたちと自分のまちを考える活動
- 震災を契機とした新しいまちづくりを考える活動
- マンション建替を支援する活動



レポート：瀧田展明氏(会員/(株)ソフトスケープ)

Seminar

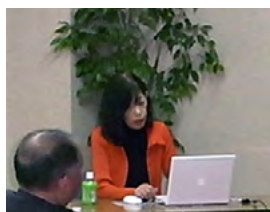
まちづくりゼミナール

第8回 講座 | 2012年2月23日

「ネットワークとコミュニケーション」

講師 | 森哲子氏 | (株) クオリアット 代表取締役

2月23日、今年度最後のゼミナールには、16名の方が参加されました。講師に当協議会運営幹事・森哲子氏を迎え、「ネットワークとコミュニケーション」と題する講演をいただきました。



森氏は講演の冒頭において、モントリオール五輪の金メダリスト、ラニー・バッシュム氏が言った「あなたが何を言うかは、さして問題ではない。重要なのは、あなたが他の人に何を思い描かせるかである」という言葉を紹介されました。人は心で動いている。つまり、《心のエネルギー》は、感情で大きくなったり小さくなったりする。だから、言葉以上に、心にプラスあるいはマイナスどちらのイメージを持つかで、活動のパフォーマンスが大きく変わるということである。

この大きさの変化から自分を解放するためには「状況に合わせた感情と向き合う必要がある」ということについて、森氏は、絵を用いて参加者と対話しながら、わかりやすく説明されました。また、このことは、マネジメントの父ドラッカーの言う「コミュニケーション成立の鍵は受け手にある」。すなわち、「組織においてコミュニケーションは手段ではなく、組織のあり方そのものである」ということに通じることを紹介されました。森氏はこのほか、心理学者チクセントミハイのフロー理論(人間がその時にしていることに精力的に集中している感覚、活動のプロセスにおいて活発さの面で成功していると感じられる状態)を創り出すことの効果、創造性を高める9つのポイント、スポーツドクター辻秀一氏の言葉などを紹介しながら、コミュニケーションを成立させるための本質と、それらを生かした組織における望ましいリーダーのあり方を示唆されました。

講演後、参加者から講演で紹介された内容についての質問、情報技術の発展に伴うコミュニケーション力の欠如などについての意見交換がなされました。

当協議会も発足後1年がたち、今後の組織の継続と発展に向けて、組織のマネジメント力に必要なスキルの一つである『コミュニケーション力』を高めながら組織と活動の活性に取り組んでまいりたいと思います。



レポート:大場眞一氏(運営幹事/ (株)シグマ都市コンサルタント)

[2011年 まちづくりゼミナール] を振り返って

2011年まちづくりゼミナールは、再開発屋のまちづくりに始まり、コミュニケーションで締めくくられました。当協議会の会員が持ち回りでゼミナール講師を引き受けることで、お互いの専門分野を知り、仕事上では得られないコミュニケーションの場を創出しようというのが狙いでした。1年を振り返ると、多様なテーマ、議論、感想が繰り広げられ、手前味噌になりますが、当協議会の人材の多様さを実感しました。今後、まだ登場していない会員のお力と知恵も借りながら、さらに充実していきたいと思います。

Member interchange

会員情報交流会

第1回 交流会 | 2011年6月21日

話題—商業施設整備プロジェクトについて

話題提供 | 国分裕正氏 | 街制作室株式会社 代表取締役

6月21日、会員同士の交流をねらいとする会員情報交流会の第1回には19名の方が参加されました。まず、街制作室株式会社代表取締役の国分裕正氏から、



帯広のばんえい十勝内にある「とかちむら」、八戸の屋台村、沖縄国際通一角の再開発、徳島・眉山前の再開発等、関わってきた商業施設整備プロジェクトについて話題提供いただきました。

その中で、国分さんがコンセプトづくりで常に大切にするのは、その土地の風土・文化を愛すること、地元で暮らす人々に愛されること、と明言される表情が印象的でした。

運営にも深く関わっている「とかちむら」については、今後の課題や方向性、来客数、売上、補助手法等、細かい情報を交えた説明もあり、参加者から様々な角度から質問や意見が飛び交い、話題をさらに掘り下げる形で対話が進んでいきました。

最後に司会から「北海道でも元気のある商業開発を」と前向きな思いを込めて締めくくられました。



レポート：高橋美香氏(会員/ (株) ソフトスケープ)

第2回 交流会 | 2011年9月29日

話題—北海道とデンマークを比較する

話題提供 | 目黒裕史氏 | (株) 日本設計 札幌支社長

9月29日、(株) 日本設計 札幌支社長目黒裕史氏から「北海道とデンマークを比較する」と題して話題提供をいただき、第2回会員情報交流会を開催しました。会員情報交流会は会員同士の交流をねらいとするものです。今回は19名の方がお集まりくださいました。



目黒さんは、人口減少と過疎地域の拡大が進む北海道の現状と今後を考えるにあたり、人口規模が北海道とほぼ等しいデンマーク王国に着目されました。複数の書籍やインターネット掲載の最新情報をもとに、デンマークと北海道そして日本を比較する詳細かつ丁寧にとりまとめた資料を提供いただきました。この資料を手がかりに、北海道の特性を詳しく解説されるかたちでの話題提供となりました。高福祉高負担で知られるデンマークでは、共生の思想が子供の教育現場から職業意識教育までを通じて、社会全体に定着している様子などが指摘されました。

後半では会場を交えて、デンマークにおける道路網などの社会資本整備の充実具合や、農業分野における生産性の高さに関する意見交換、北海道の畜産技術にはデンマーク由来の側面があるという情報提供もありました。社会資本事情や農業分野の技術交流など幅広く語られる有意義な時間となりました。その後、居酒屋に移り、終始和やかな雰囲気のなか、北海道の今後な



どについて掘り下げた対話が広がり、交流もさらに深められました。

レポート：岡本浩一氏(会員/ 北海学園大学準教授)

Member interchange

会員情報交流会

第3回 交流会 | 2011年12月9日

話題—風景をつくる仕事

話題提供 | 高森篤志氏 | 株式会社ソフトスケープ 代表取締役

12月9日、(株)ソフトスケープの高森篤志氏に「風景をつくる仕事」と題して話題提供いただいた第3回会員情報交流会には、13名の方が参加されました。

話題は河川のプランニングから展開され、茂漁(もいざり)川やユカンボシ川等の関わってきたプロジェクトを紹介しながら、何年も先にどんな風景になっていくのかを考えることや、周りの風景との調和を考えて『何もしないで残す』(そのために周到な計算が必要)という選択を考えることなど、川の風景を考える奥深さ、魅力について紹介いただきました。

続いて、公園をパブリックアートにした事例、公共サインデザイン、校歌分析等についてのお話をいただきました。後半は、オペレーションを話題にして、小平のエゾカンソウ、羽幌のひまわり、室蘭の花の植栽など、地域の活性化を考えて取り組まれた数々の体験談を交えた事例紹介について興味深く拝聴しました。

最後に①景観形成の実効性、②その背景、③大切なこと、をまとめとして取り上げられ、中でもそこに関わる人々の成功体験の積み重ねが大切というお話は印象に残りました。「景観をつくる」ということを、まち全体から巧みに捉え、自然も文化も人もトータルに考えられている高森氏の話題提供には、あらためてまちづくりの視点の多様性を感じることができ、非常に有意義なものとなりました。



レポート: 阿部 桂太朗氏(会員/清水建設(株))

第4回 交流会 | 2012年3月29日

話題—まちを育てる人を育てたい～都市・住環境研究室の一年

話題提供 | 岡本浩一氏 | 北海学園大学工学部 准教授

3月29日、この日の交流会は北海学園大学工学部建築学科准教授岡本浩一氏から『まちを育てる人を育てたい～都市・住環境研究室の一年』というテーマで話題提供をいただき開催しました。お題への関心も高く参加者24名を数えました。はじめに、岡本さんからスライドで、「まちを育てる人、とは、人々とまちの触れあいをつくり続ける人」とキーワードが提示された。岡本ゼミでは、このキーワードをベースに学生さんとの触れあいや講義を行っているというわけだ。その実践は『細かな指導よりの確かな助言を』をスタンスに、「達成感、相互協力、意思疎通、自己管理」を大切にしていると話された。

研究室での1年は四季ごとの達成目標を学生に提示し進められる。ゼミの内容は、「まち歩き」「当協議会コミュニティ再生グループ研究活動への参加」「函館市でのペンキ塗りボランティア参加」「現場実務者の話を聴く講義」など多彩だ。こうした体験から得た自分の思いと自分が持てる事実との折り合いをつけながら、自分の卒業論文をまとめ上げる産みの苦しみを経て、ようやく卒業時に「達成感、相互協力、意思疎通、自己管理」の大切さを分かってくれるのだろうと、実感していると締めくくられた。また、岡本さんなりに捉えた最近の学生気質の端的な指摘には、大きく頷いた参加者が「ナルホド勉強になるな」ともらす場面も…

スライド終了後、参加者から、『自分を表現するとは、毎日が表現だけの刺激を与えるてはどうだろう』『アイデアから説得力のあるプレゼンテーションまで持つて行くことは、コミュニケーションを通した人づくり』『再開発の講座をやってみて、講師体験はとても面白かった』など活発に意見が出された。

レポート: 森哲子氏(運営幹事/(株)クオリアット)



Organization

組織・役員

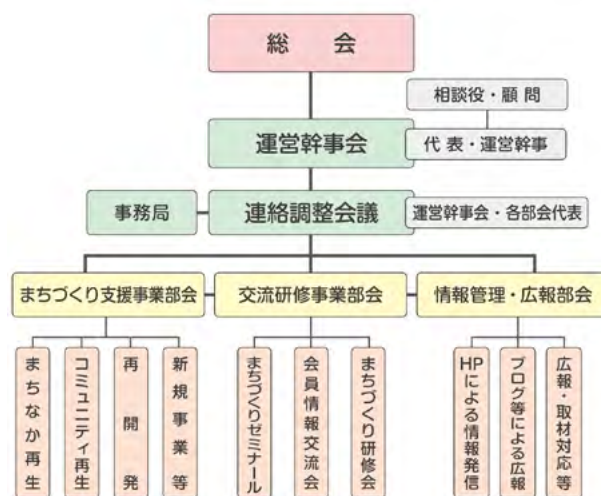
■ 組 織

本協議会は、会員の積極的な参画を募って運営を行っています。

運 営 幹 事 会	協議会の事業および運営に関する、 総会決議事項の協議、提案
連絡調整会議	協議会の活動および運営の協議、調整。
事 務 局	協議会の会計業務を主とした事務の執行

会員には、部会に所属し協議会の運営に参画していただきます。

ま ち づ くり 支 援 事 業 部 会	各研究実践活動の活性を図るための調整、 活動促進への協力
交 流 研 修 部 会	ゼミナール、会員情報交流会 まちづくり研修会の企画・運営
情 報 管 理 部 会	HP、ブログ、メール等による情報発信 広報活動および管理運営



■ 事業内容

(1) まちづくり支援事業

- 地域再生等に関する調査研究、支援、提言
- コミュニティの形成等に関する調査研究、支援、提言
- まちの産業再生・活性化、まちマネジメント等に関する調査研究、支援、提言
- 多様な分野との連携をいかしたまちづくりに関する調査研究、支援、提言
- 再開発やマンション建替え事業等に関する調査研究、支援、提言

(2) 交流研修事業

- セミナー、意見交換会、勉強会、研修会、講演会等の実施

(3) 情報関連事業

- ホームページ、メールマガジン等による情報発信

(4) 上記に掲げる事業に附帯または関連する事業

「環境への取り組み」

地域の環境保全に貢献することを目的に、年度予算の1%程度を活用し環境や自然保全等に取り組む公益的団体等に寄付、支援等を実施

■ 役 員

代 表	大 石 章 夫	有限会社大石R計画 代表取締役
相 談 役	上 田 陽 三	前社団法人北海道まちづくり促進協会 会長 元北海道大学・北海学園大学・札幌学院大学大学院 教授
	太 田 清 澄	札幌学院大学大学院 教授、前社団法人北海道まちづくり促進協会 顧問
顧 問	濱 谷 雅 弘	北海道工業大学 未来デザイン学部 教授
	吉 岡 宏 高	札幌国際大学 観光学部 教授
運 営 幹 事	大 場 眞 一	株式会社シグマ都市コンサルタント 代表取締役
	菅 野 克	清水建設株式会社 北海道支店 開発営業部 課長
	佐 藤 薫	一般財団法人日本不動産研究所北海道支社 支社長
	中 山 祐 二	株式会社シン技術コンサル 都市施設部 課長
	林 雅 之	パワーウェーブ 主宰
	森 哲 子	株式会社クオリアット 代表取締役

Members

会員名簿

【企業正会員】

2012年3月31日現在

	名 称	代 表 者	担 当 者
1	株式会社アーレックス	代表取締役 林 秀 樹	都市計画研究所長 八田 真勝
2	アルファコート株式会社	代表取締役 川村 裕二	常務取締役 樋口 千恵
3	伊藤組土建株式会社	代表取締役 津 司 武	営業部次長 沓 沢 和重
4	岩田地崎建設株式会社	代表取締役社長 岩田 圭剛	企画営業部次長 内山 靖久
5	有限会社ウイステリア	代表取締役 藤 井 基 彰	
6	有限会社大石R計画	代表取締役 大石 章夫	
7	株式会社クオリアット	代表取締役 森 哲 子	
8	株式会社クレオ・ムイナス	代表取締役 今村 樹 憲	社長室 川辺 珠美
9	株式会社コムズワーク	代表取締役 竹ノ内 久	
10	株式会社シー・イー・サービス	代表取締役社長 小室 裕一	総務部部長 河原 学
11	株式会社シグマ都市コンサルタント	代表取締役 大 場 眞一	
12	清水建設株式会社 北海道支店	執行役員支店長 岩川 千行	開発営業部課長 菅 野 克
13	有限会社ジョブコム	代表取締役 能 戸 裕之	
14	株式会社シン技術コンサル	代表取締役社長 佐 藤 進	都市施設部課長 中山 祐二
15	株式会社ズコーシャ	代表取締役 関 本 裕至	技術顧問 高 橋 明男
16	株式会社ソフトスケープ	代表取締役 高 森 篤志	
17	大成建設株式会社 札幌支店	支店長 藤 田 正人	営業部開発部課長代理 村田 小太郎
18	株式会社ドーコン	代表取締役社長 平 野 道夫	総合計画部部長 幅 田 雅喜
19	戸田建設株式会社 札幌支店	執行役員支店長 土 井 徹	営業部営業部長 菅 原 千秋
20	株式会社日本設計札幌支社	支社長 目 黒 裕史	
21	日本データサービス株式会社	代表取締役社長 白 尾 宣彦	企画部課長 山 下 昌彦
22	一般財団法人日本不動産研究所 北海道支社	北海道支社長 佐 藤 薫	
23	パワーウエーブ	主 宰 林 雅 之	
24	有限会社フォアキャスト	代表取締役 杉 本 潔	
25	株式会社プランニングアーク	代表取締役 深 澤 照一	
26	北海道印刷企画株式会社	代表取締役社長 中 村 宣隆	
27	北海道ガス株式会社	エネルギー営業部長 菅 原 利浩	エネルギー営業部計画推進G 別島 めぐみ
28	株式会社北海道鑑定	代表取締役 林 誠	企画調査室長 横 山 幹人
29	前田建設工業株式会社 北海道支店	支店長 五十嵐 勝美	建築部営業グループチーム長 吉 俊也
30	街制作室株式会社	代表取締役 国 分 裕正	代表取締役専務 岡 本 克己
31	丸彦渡辺建設株式会社	代表取締役社長 工 藤 茂	営業部設計グループ 本 居 功光
32	YAM建築計画	主 宰 山 口 重 則	
33	有限会社ワイズデザイン アンド マネージメンツ	代表取締役 坂 本 行宏	

【個人正会員】

1	一戸 勝巳	5	加納 隆一	9	武井 秀爾	13	西間 敏幸	17	松井 泰友
2	岡本 浩一	6	後藤 健夫	10	富山 哲也	14	濱谷 雅弘	18	吉岡 宏高
3	香川 誠	7	佐藤 市郎	11	中村 清司	15	藤山 三冬		
4	葛西 政一	8	島津 毅	12	中村 友宣	16	本間 寿幸		

【団体賛助会員】

	名 称	代 表 者	担 当 者
1	琴似4・2地区第一種市街地再開発事業個人施行者	代 表 宮坂 文範	事務局長 川瀬 浩

【特別会員】

	名 称	代 表 者	担 当 者
1	岩見沢市	岩見沢市長 渡 辺 孝一	経済部中心市街地活性化推進室 中心市街地活性化推進係
2	恵庭市	恵庭市長 原 田 裕	企画振興部都市計画課 主査 岩田 雅浩
3	千歳市	千歳市長 山 口 幸太郎	産業振興部商業労働課商業振興係長 佐 藤 暢也
4	二セコ町	二セコ町長 片 山 健也	企画環境課経営企画係 福 井 沙紀
5	函館市	函館市長 工 藤 壽樹	都市建設部都市整備課 澤 田 孝



北海道まちづくり協議会 | 2011年度活動報告書

〔発行〕

北海道まちづくり協議会

(連絡事務局) 札幌市中央区北3条西7丁目-1 緑苑ビル2階

TEL.011-232-0926 FAX.011-222-5697

Email : info-ad@kitamachi.org

●お問い合わせ等はEメールをお願いします